

**平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査  
調査結果のポイントについて**

**～北海道（公立）における調査結果～**

**北海道教育委員会  
令和元年（2019年）7月31日**

# 【 目 次 】

1. 調査の概要 .....	1
2. 結果の概要 .....	2
■ 教科に関する調査	
■ 児童生徒質問紙調査	
■ 学校質問紙調査	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校〈国語、算数〉.....	4
■ 中学校〈国語、数学、英語〉.....	8
■ 過去の同一問題との比較 .....	15
4. 質問紙調査 .....	16
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果 .....	24

# 1. 調査の概要

## 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

## 3 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
  - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容※上記を一体的に問う。
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

## 4 調査の方式

悉皆調査

## 5 調査の実施日

平成31年（2019年）4月18日（木）

## 6 平成31年（2019年）4月18日（木）に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,000	997(99.7%)	38,837	小学校	19,299	19,263(99.8%)	1,028,203
中学校	585	584(99.8%)	37,859	中学校	9,572	9,513(99.4%)	938,888
合計	1,585	1,581(99.7%)	76,696	合計	28,871	28,776(99.7%)	1,967,091

※ 札幌市を含む。

※ 調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数に含まれていない。

## 【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値\*1、標準偏差\*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに道教委が独自に算出した小数値で示している。
- 中学校英語の結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について示している。「話すこと」については、参考値として国の結果を示している。

\*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

\*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

## 2. 結果の概要

### ■ 教科に関する調査

#### ○ 平均正答率の比較

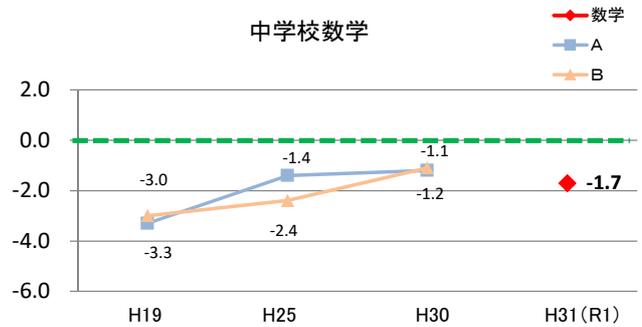
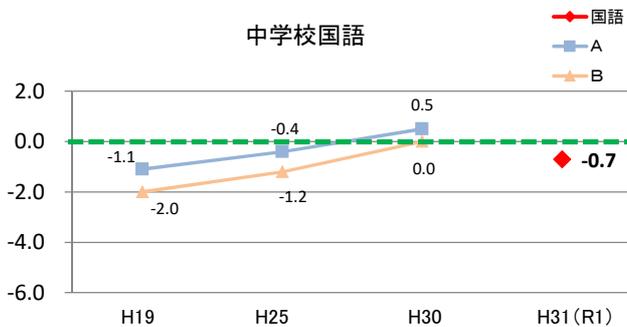
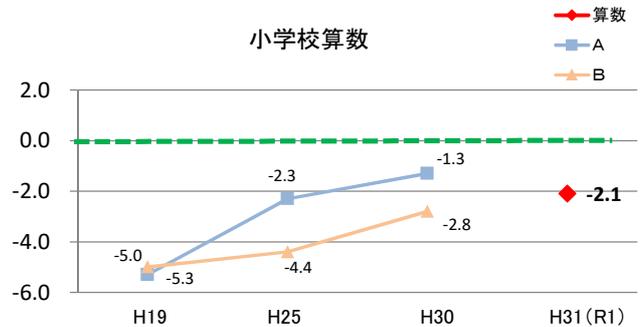
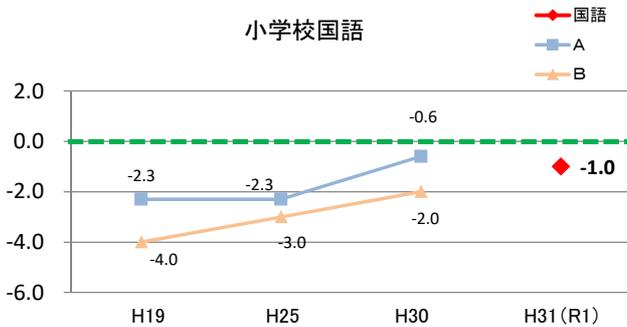
- ・ 小学校は、すべての教科で全国との差が2.1ポイント以内（平成30年度2.8ポイント以内）。
- ・ 中学校は、すべての教科で全国との差が1.8ポイント以内（平成30年度1.2ポイント以内）。

#### 各教科の平均正答率

		小学校				中学校				
		国語		算数		国語		数学		英語
		H31(R1)		H31(R1)		H31(R1)		H31(R1)		H31(R1)
		H30A	H30B	H30A	H30B	H30A	H30B	H30A	H30B	
平均正答率 (%)	道	63[62.8]		64[64.5]		72[72.1]		58[58.1]		54[54.2]
	国	64[63.8]		67[66.6]		73[72.8]		60[59.8]		56[56.0]
平均正答数 (問)	道	8.8/14		9.0/14		7.2/10		9.3/16		11.4/21
	国	8.9/14		9.3/14		7.3/10		9.6/16		11.8/21

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値〔道教委が独自に算出した小数値〕  
 ※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値〔国が公表した小数値〕  
 ※ 上段は平成31年度（令和元年度）、下段は平成30年度、英語は平成31年度（令和元年度）から実施。  
 ※ 中学校英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値。  
 [参考] 中学校英語「話すこと」調査の平均正答率（国の参考値）：  
 全国（国公私）の平均正答率（%）31〔30.8〕、全国（国公私）の平均正答数（問）1.5/5

#### 全国と北海道の平均正答率の差



※ 数値は、「北海道(公立)の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差で算出。

## ■ 児童生徒質問紙調査(グラフはP16、P18、P20～P21に掲載)

( ) 内は質問番号

- ① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合は、小学校で30.9%、中学校で26.8%であり、昨年度と比べて、小学校、中学校とも3.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で2.5ポイント低い。(小35、中37)
- ② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の割合は、小学校で28.6%、中学校で27.0%であり、昨年度と比べて、小学校で5.3ポイント、中学校で4.1ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.7ポイント、中学校で1.3ポイント低い。(小29、中32)
- ③ 学校のきまりを守っている児童生徒の割合は、小学校で42.3%、中学校で64.9%であり、昨年度と比べて、小学校で2.5ポイント、中学校で2.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.4ポイント、中学校で1.9ポイント低い。(小13、中13)
- ④ 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う生徒の割合は、中学校で40.2%であり、全国と比べて、1.1ポイント高い。(中65)
- ⑤ 国語の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合は、小学校で79.5%、中学校で77.8%であり、平成29年度と比べて、小学校で4.3ポイント、中学校で8.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.9ポイント、中学校で2.0ポイント低い。(小45、中48)
- ⑥ 算数・数学の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合は、小学校で78.4%、中学校で55.6%であり、昨年度と比べて、小学校で9.9ポイント、中学校で4.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.3ポイント、中学校で5.2ポイント低い。(小56、中53)
- ⑦ 家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小学校で71.3%、中学校で49.2%であり、昨年度と比べて、小学校で3.7ポイント高く、中学校で3.4ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント、中学校で1.2ポイント低い。(小17、中17)
- ⑧ 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で57.6%、中学校で63.2%であり、昨年度と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で1.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で8.5ポイント、中学校で6.6ポイント低い。(小18、中18)

## ■ 学校質問紙調査(グラフはP17、P19、P22～P23に掲載)

( ) 内は質問番号

- ⑨ 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う学校の割合は、小学校で27.4%、中学校で17.8%であり、昨年度と比べて、小学校で1.6ポイント高く、中学校で1.7ポイント低い。全国と比べて、小学校で10.5ポイント、中学校で3.3ポイント高い。(小32、中33)
- ⑩ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をよく行った学校の割合は、小学校で40.8%、中学校で33.0%であり、昨年度と比べて、小学校で1.9ポイント、中学校で0.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で18.6ポイント、中学校で12.2ポイント高い。(小37、中37)
- ⑪ 学習規律の維持の徹底をよく行った学校の割合は、小学校で68.3%、中学校で71.4%であり、昨年度と比べて、小学校で1.5ポイント、中学校で3.3ポイント低い。全国と比べて、小学校で10.5ポイント、中学校で7.6ポイント高い。(小13、中13)
- ⑫ 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動をよく行った学校の割合は、中学校で22.6%であり、全国と比べて、5.0ポイント高い。(中57)
- ⑬ 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合は、小学校で56.2%、中学校で53.3%であり、昨年度と比べて、小学校で7.7ポイント、中学校で8.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で18.9ポイント、中学校で19.4ポイント高い。(小17、中17)
- ⑭ 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するための活用をよく行った学校の割合は、小学校で66.6%、中学校で59.9%であり、昨年度と比べて、小学校で2.6ポイント、中学校で0.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で24.1ポイント、中学校で25.4ポイント高い。(小63、中79)
- ⑮ 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修をよくしている学校の割合は、小学校で78.5%、中学校で76.4%であり、昨年度と比べて、小学校で1.3ポイント、中学校で4.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.4ポイント、中学校で13.2ポイント高い。(小22、中23)
- ⑯ 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的な取組をよくしている学校の割合は、小学校で66.2%、中学校で62.5%であり、昨年度と比べて、小学校で1.6ポイント、中学校で1.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で7.0ポイント、中学校で11.1ポイント高い。(小30、中31)

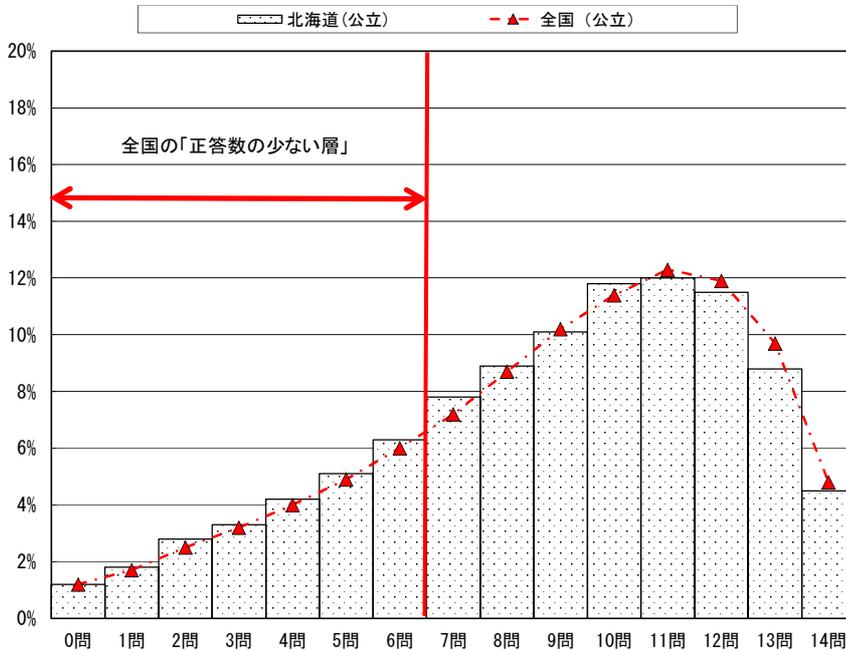
### 3. 教科に関する調査

#### ■ 小学校国語

##### 【概要】

- 平均正答率は63〔62.8〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.0ポイント。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	38,831	8.8 / 14	63〔62.8〕	9.0	3.4
全国(公立)	1,028,203	8.9 / 14	64〔63.8〕	10.0	3.4



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数(正答率)	北海道	全国
14問(100.0%)	4.5	4.8
13問(92.9%)	8.8	9.7
12問(85.7%)	11.5	11.9
11問(78.6%)	12.0	12.3
10問(71.4%)	11.8	11.4
9問(64.3%)	10.1	10.2
8問(57.1%)	8.9	8.7
7問(50.0%)	7.8	7.2
6問(42.9%)	6.3	6.0
5問(35.7%)	5.1	4.9
4問(28.6%)	4.2	4.0
3問(21.4%)	3.3	3.2
2問(14.3%)	2.8	2.5
1問(7.1%)	1.8	1.7
0問(0.0%)	1.2	1.2

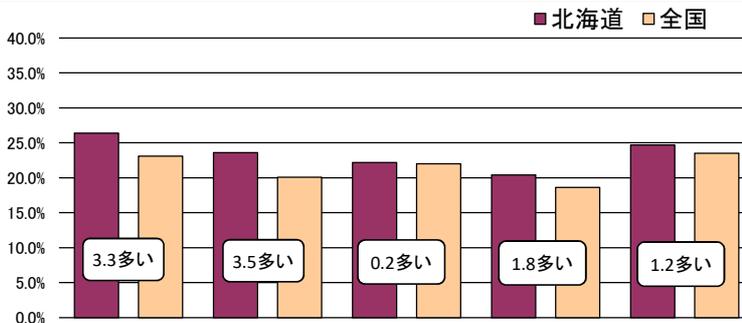
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△11.0問	12.0問
第2四分位	◇9.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

#### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



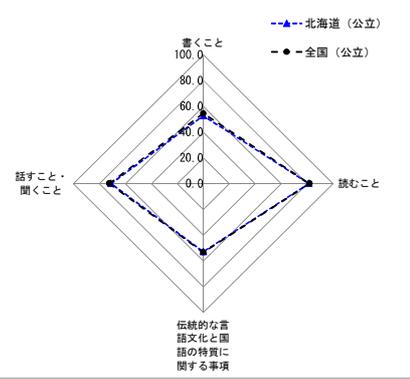
	H25				H30				H31(R1)	
	A		B		A		B			
	全道	全国	全道	全国	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	26.4%	23.1%	23.6%	20.1%	22.2%	22.0%	20.4%	18.6%	24.7%	23.5%
正答数	18問中 8問以下		10問中 2問以下		12問中 6問以下		8問中 2問以下		14問中 6問以下	
全国との差	3.3 多い		3.5 多い		0.2 多い		1.8 多い		1.2 多い	

# 問題別調査結果 [小学校国語]

## 集計結果

対象学校数	北海道 (公立)	全国 (公立)	対象児童数	北海道 (公立)	全国 (公立)
	997	19,263		38,831	1,028,203
分類	区分		対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
	全体			北海道 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		3	71.0	72.3
	書くこと		3	52.7	54.5
	読むこと		3	81.2	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		5	52.9	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		3	56.6	57.6
	話す・聞く能力		3	71.0	72.3
	書く能力		3	52.7	54.5
	読む能力		3	81.2	81.7
	言語についての知識・理解・技能		5	52.9	53.5
問題形式	選択式		7	74.0	75.1
	短答式		4	48.0	48.7
	記述式		3	56.6	57.6

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



## 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式	正答率 (%)		無解答率 (%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	話す・聞く能力	書く能力	読む能力		北海道 (公立)	全国 (公立)	北海道 (公立)	全国 (公立)
1-1	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と(資料3)をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	5-6 エ				○	○	○	68.6	71.2	0.5	0.5
1-2	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方が特長があるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える	5-6 ウ				○	○	○	61.7	63.4	5.7	5.9
1-3	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(1)と(2)で分かったことをまとめて書く」	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	5-6 ウ		○		○		○	27.9	28.8	3.7	3.8
1-4(1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「ア」部を、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う		5-6 (1)ア			○	○	○	41.4	41.9	10.5	8.2
1-4(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「イ」部を、漢字を使って書き直す(友達にかぎらず)			5-6 (1)ア			○	○	○	70.3	69.4	12.0	12.1
1-4(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「ウ」部を、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)			5-6 (1)ア			○	○	○	34.1	35.6	5.9	4.9
1-4(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「イ」の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く		3-4 (1)イ			○	○	○	46.1	47.8	12.2	11.3
2-1(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の「ア」に入る、疑問に思ったこと(1)に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	5-6 ウ				○	○	○	80.0	80.7	1.4	1.4
2-1(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の「イ」に、疑問に思ったこと(2)に対する答えになるように考えて書く		5-6 ウ				○		○	75.3	75.9	5.0	5.0
2-2	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	5-6 イ				○	○	○	88.3	88.5	4.2	4.2
3-1	農職人への【インタビューの様子】の「ア」に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする	5-6 エ				○		○	80.4	81.3	3.4	3.4
3-2	農職人への【インタビューの様子】の「イ」の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	目的に応じて、質問を工夫する	5-6 エ				○		○	66.1	67.4	4.2	4.2
3-3	【インタビューの様子】の「イ」に、農職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	5-6 エ				○		○	66.5	68.2	15.0	14.2
3-4	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の「ウ」に入る適切なものを選択する(雷より懼れよ)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる		3-4 (1)ウ			○	○	○	72.6	73.0	8.0	7.9

※(参考) 従来の区分は、過年度からの継続的な分析に資するため、参考として付すもの。

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H25		H30		H31(R1)
	A	B	A	B	
平均正答率が全国以上の問題数	4/18問	0/10問	4/12問	0/8問	1/14問
無解答率が全国以下の問題数	8/18問	1/10問	12/12問	5/8問	9/14問
無解答率が5%以上の問題数	12/18問	8/10問	4/12問	2/8問	8/14問

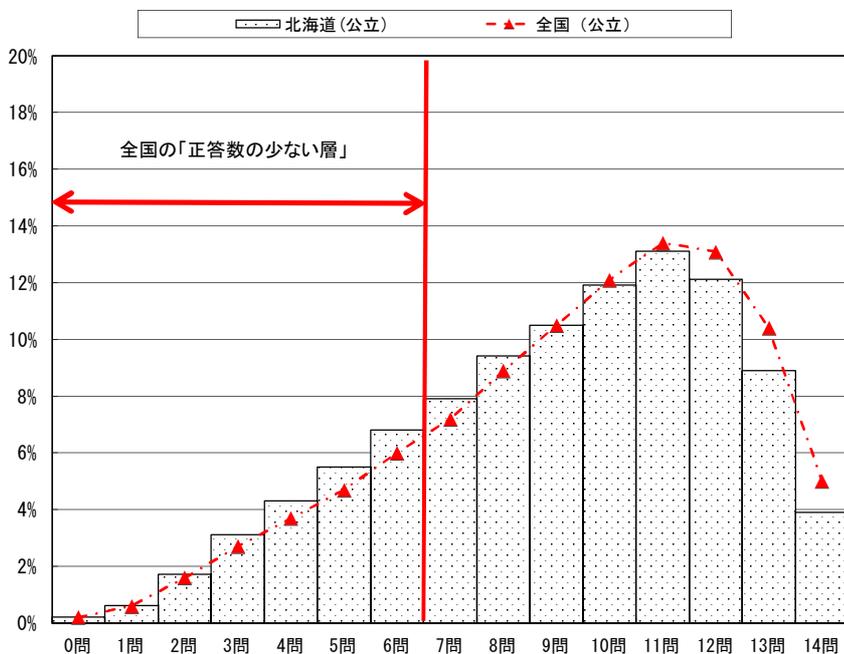
### 3. 教科に関する調査

#### ■ 小学校算数

##### 【概要】

- 平均正答率は64〔64.5〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.1ポイント。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	38,837	9.0 / 14	64〔64.5〕	9.0	3.1
全国(公立)	1,028,177	9.3 / 14	67〔66.6〕	10.0	3.1



※ 全国の「正答数の少ない層」…全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
14問(100.0%)	3.9	5.0
13問(92.9%)	8.9	10.4
12問(85.7%)	12.1	13.1
11問(78.6%)	13.1	13.4
10問(71.4%)	11.9	12.1
9問(64.3%)	10.5	10.5
8問(57.1%)	9.4	8.9
7問(50.0%)	7.9	7.2
6問(42.9%)	6.8	6.0
5問(35.7%)	5.5	4.7
4問(28.6%)	4.3	3.7
3問(21.4%)	3.1	2.7
2問(14.3%)	1.7	1.6
1問(7.1%)	0.6	0.6
0問(0.0%)	0.2	0.2

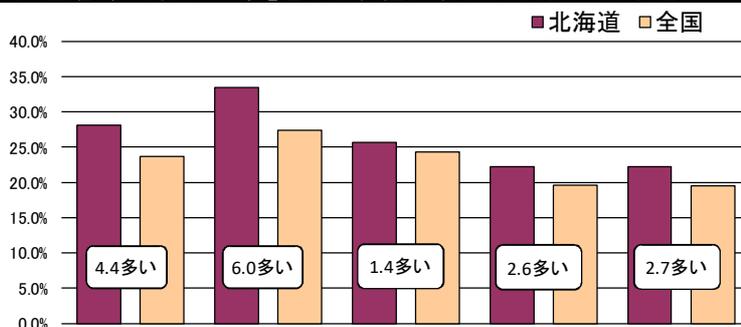
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△11.0問	12.0問
第2四分位	◇9.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

#### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	H25				H30				H31(R1)	
	A		B		A		B		全道	全国
	全道	全国	全道	全国	全道	全国	全道	全国		
割合	28.1%	23.7%	33.4%	27.4%	25.7%	24.3%	22.2%	19.6%	22.2%	19.5%
正答数	19問中 12問以下		13問中 5問以下		14問中 6問以下		10問中 2問以下		14問中 6問以下	
全国との差	4.4 多い		6.0 多い		1.4 多い		2.6 多い		2.7 多い	



### 3. 教科に関する調査

#### ■ 中学校国語

##### 【概要】

- 平均正答率は72〔72.1〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.7ポイント。
- 〔参考〕平成28年度小学校国語Aの全国平均正答率との差は、-1.9ポイント。
- 平成28年度小学校国語Bの全国平均正答率との差は、-1.8ポイント。

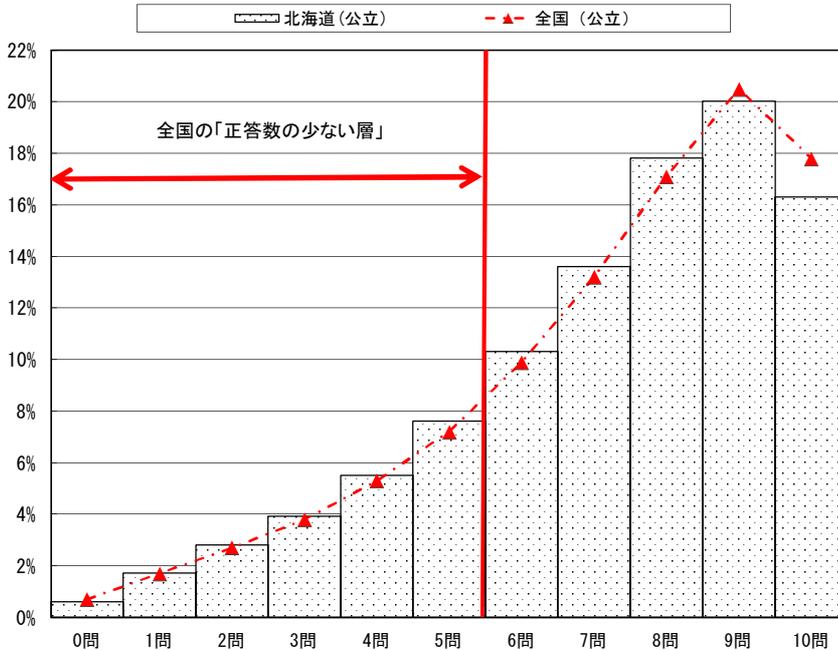
	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	37,859	7.2 / 10	72〔72.1〕	8.0	2.4
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	73〔72.8〕	8.0	2.4

正答数(正答率)	北海道	全国
10問(100.0%)	16.3	17.8
9問(90.0%)	20.0	20.5
8問(80.0%)	17.8	17.1
7問(70.0%)	13.6	13.2
6問(60.0%)	10.3	9.9
5問(50.0%)	7.6	7.2
4問(40.0%)	5.5	5.3
3問(30.0%)	3.9	3.8
2問(20.0%)	2.8	2.7
1問(10.0%)	1.7	1.7
0問(0.0%)	0.6	0.7

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

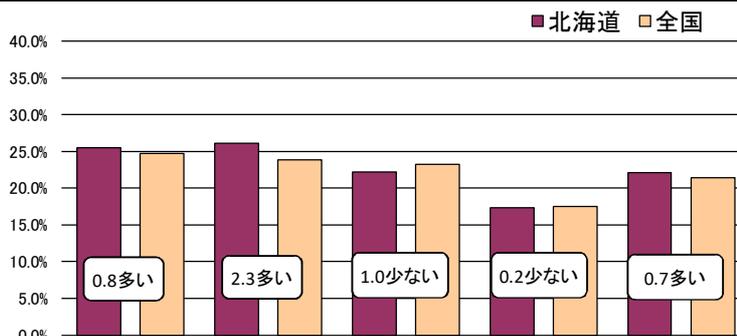
	北海道	全国
第3四分位	△9.0問	9.0問
第2四分位	◇8.0問	8.0問
第1四分位	▽6.0問	6.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。  
     は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

#### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	H25		H30		H31(R1)					
	A	B	A	B	全道	全国				
割合	25.5%	24.7%	26.1%	23.8%	22.2%	23.2%	17.3%	17.5%	22.1%	21.4%
正答数	32問中 21問以下		9問中 4問以下		32問中 21問以下		9問中 3問以下		10問中 5問以下	
全国との差	0.8	多い	2.3	多い	1.0	少ない	0.2	少ない	0.7	多い

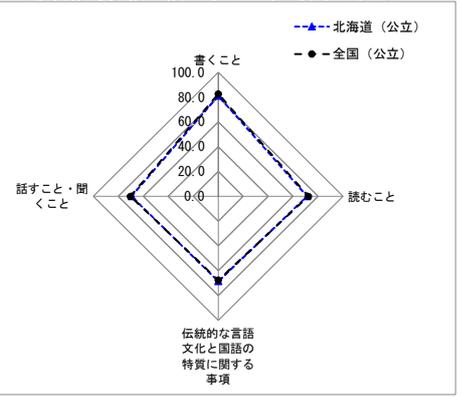
〔参考〕平成28年度  
 小学校国語A  
 全道 23.9% 全国 21.3%  
 全国との差 2.6多い  
 小学校国語B  
 全道 32.6% 全国 29.8%  
 全国との差 2.8多い

# 問題別調査結果 [中学校国語]

## 集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	584	9,511		37,859	938,797
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体			10	72 [72.1]	73 [72.8]
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.4	70.2	
	書くこと	2	81.1	82.6	
	読むこと	3	71.2	72.2	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	68.6	67.7	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	74.4	76.5	
	話す・聞く能力	3	69.4	70.2	
	書く能力	2	81.1	82.6	
	読む能力	3	71.2	72.2	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	2	68.6	67.7	
	選択式	6	73.6	73.6	
	短答式	1	56.9	56.8	
	記述式	3	74.4	76.5	

## <学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



## 問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点				(参考)従来の区分	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能			知識に関する問題	活用に関する問題	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したのとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ			2ウ				○			○	○	○	61.9	63.9	0.1	0.1
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1イ				○			○	○	62.2	61.5	0.1	0.1	
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ			1オ			○				○		89.4	91.2	2.1	1.7	
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く			1(2)ア							○	○	56.9	56.8	6.3	5.6	
2一	話し合いでの発言の役割について説明したのとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ						○					80.6	80.4	0.1	0.2	
2二	話し合いでの発言について説明したのとして適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝わる表現について理解する	1ウ						○					69.7	69.7	0.2	0.3	
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	1オ					○						57.9	60.4	10.6	8.9	
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する			2エ				○					86.5	87.4	0.3	0.4	
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	1ウ						○					75.7	77.8	9.8	7.9	
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、語や文章の中での適切な活用の仕方を理解する			1(1)イ(1)									80.4	78.7	1.1	1.2	

※(参考)従来の区分は、過年度からの継続的な分析に資するため、参考として付すもの。

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H25		H30		H31(R1)
	A	B	A	B	
平均正答率が全国以上の問題数	14/32問	0/9問	23/32問	5/9問	5/10問
無解答率が全国以下の問題数	28/32問	5/9問	27/32問	6/9問	6/10問
無解答率が5%以上の問題数	5/32問	2/9問	7/32問	3/9問	3/10問

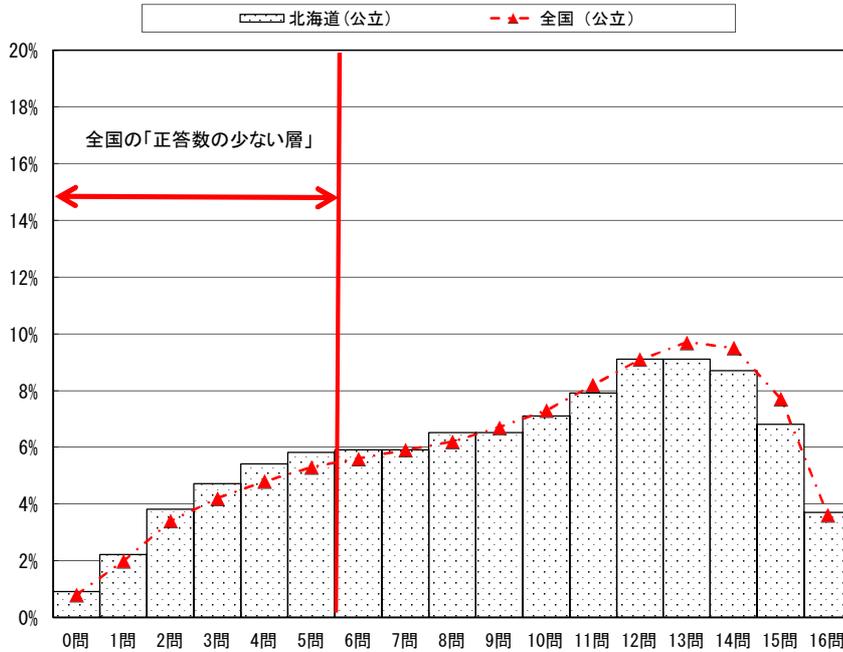
### 3. 教科に関する調査

#### ■ 中学校数学

##### 【概要】

- 平均正答率は58〔58.1〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.7ポイント。
- 【参考】平成28年度小学校算数Aの全国平均正答率との差は、-2.3ポイント。
- 平成28年度小学校算数Bの全国平均正答率との差は、-2.7ポイント。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	37,844	9.3 / 16	58〔58.1〕	10.0	4.2
全国(公立)	938,887	9.6 / 16	60〔59.8〕	10.0	4.2



※ 全国の「正答数の少ない層」… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
16問(100.0%)	3.7	3.6
15問(93.8%)	6.8	7.7
14問(87.5%)	8.7	9.5
13問(81.3%)	9.1	9.7
12問(75.0%)	9.1	9.1
11問(68.8%)	7.9	8.2
10問(62.5%)	7.1	7.3
9問(56.3%)	6.5	6.7
8問(50.0%)	6.5	6.2
7問(43.8%)	5.9	5.9
6問(37.5%)	5.9	5.6
5問(31.3%)	5.8	5.3
4問(25.0%)	5.4	4.8
3問(18.8%)	4.7	4.2
2問(12.5%)	3.8	3.4
1問(6.3%)	2.2	2.0
0問(0.0%)	0.9	0.8

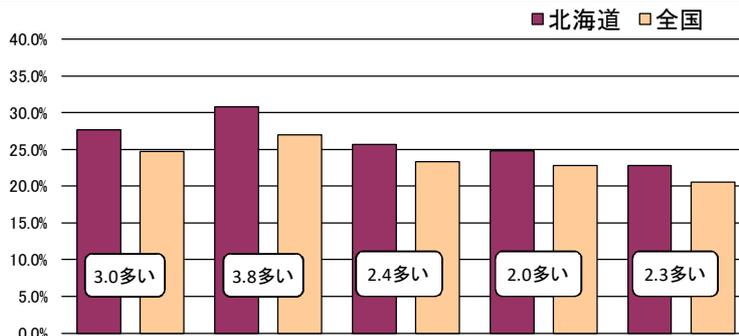
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△13.0問	13.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽6.0問	6.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

#### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	H25		H30		H31(R1)					
	A	B	A	B	全道	全国				
割合	27.7%	24.7%	30.8%	27.0%	25.7%	23.3%	24.8%	22.8%	22.8%	20.5%
正答数	36問中 17問以下		16問中 3問以下		36問中 17問以下		14問中 3問以下		16問中 5問以下	
全国との差	3.0 多い		3.8 多い		2.4 多い		2.0 多い		2.3 多い	

【参考】平成28年度

小学校算数A

全道 28.1%  
 全国 24.2%  
 全国との差 3.9多い

小学校算数B

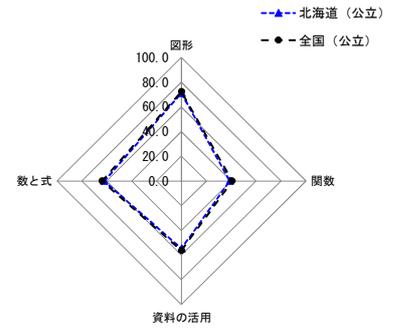
全道 23.6%  
 全国 20.0%  
 全国との差 3.6多い

# 問題別調査結果 [中学校数学]

## 集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	584	9,505		37,844	938,887
分類	区分		対象問題数(問)	平均正答率(%)	
	全体			16	58 [58.1]
学習指導要領の領域	数と式		5	62.1	63.8
	図形		4	71.2	72.4
	関数		3	38.8	40.8
	資料の活用		4	54.6	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		0		
	数学的な見方や考え方		8	48.8	51.0
	数学的な技能		3	62.0	63.9
	数量や図形などについての知識・理解		5	70.8	71.3
問題形式	選択式		5	59.3	60.3
	短答式		7	64.9	66.6
	記述式		4	44.9	47.1

## <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



## 問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				(参考)従来区分	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)			
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解			知識に関する問題	活用に関する問題	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1)ア												64.3	62.2	0.1	0.2
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ												68.3	70.1	5.4	5.1
3	△ABC を、矢印の方向に△DEF まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している	1(1)イ												81.7	83.6	0.8	0.7
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、x と y の関係を式で表すことができる			1(1)エ										46.0	48.9	12.0	10.4
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる			2(1)ア										71.6	72.8	3.7	3.3
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる			2(1)イ、エ										37.4	38.8	0.3	0.3
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1)イ、エ										33.1	34.7	15.9	11.6
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ア												76.0	75.8	5.7	5.2
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している	2(2)イ												76.6	77.2	0.4	0.5
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる			2(2)ウ										50.3	53.3	21.5	17.6
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる			1(1)ア										55.3	57.9	10.9	10.6
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ										41.0	40.8	25.2	21.3
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決するためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる			1(1)ア、イ										50.4	53.6	0.9	1.0
9(1)	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	2(1)イ、ウ												55.0	57.4	11.4	9.5
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ、ウ												55.2	59.7	22.2	17.8
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	2(1)イ、ウ												67.8	69.6	1.7	1.9

※(参考)従来区分は、過年度からの継続的な分析に資するため、参考として付すもの。

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

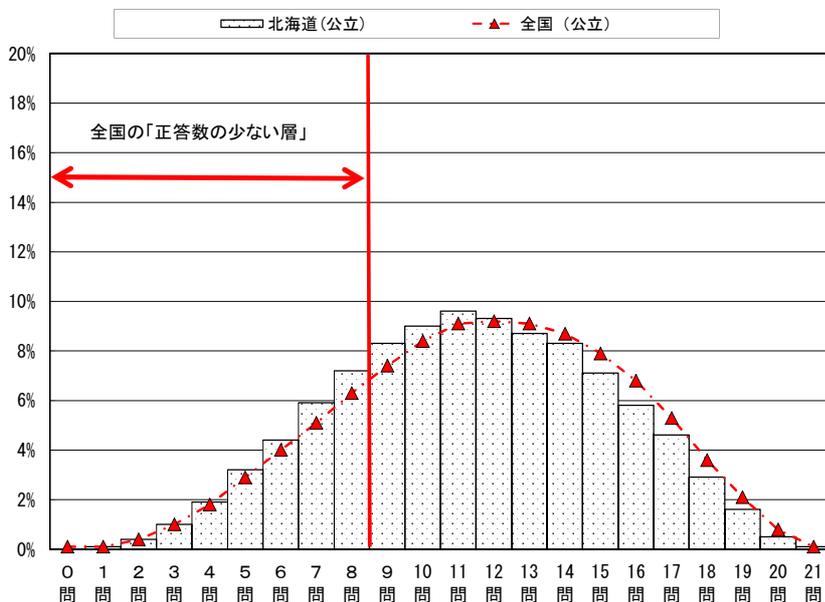
	H25		H30		H31(R1)
	A	B	A	B	
平均正答率が全国以上の問題数	7/36問	2/16問	8/36問	3/14問	3/16問
無解答率が全国以下の問題数	21/36問	4/16問	19/36問	2/14問	5/16問
無解答率が5%以上の問題数	13/36問	12/16問	10/36問	10/14問	9/16問

## ■ 中学校英語

### 【概要】

- 平均正答率は54 [54.2] %
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.8ポイント。

	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	37,844	11.4 / 21	54 [54.2]	11.0	3.8
全国(公立)	938,888	11.8 / 21	56 [56.0]	12.0	3.9



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

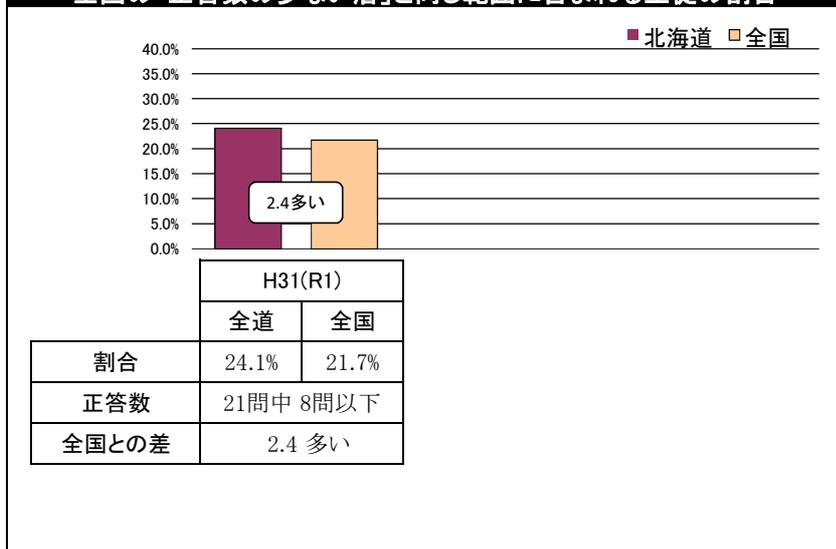
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数 (正答率)	北海道	全国
21問 (100.0%)	0.1	0.1
20問 (95.2%)	0.5	0.8
19問 (90.5%)	1.6	2.1
18問 (85.7%)	2.9	3.6
17問 (81.0%)	4.6	5.3
16問 (76.2%)	5.8	6.8
15問 (71.4%)	7.1	7.9
14問 (66.7%)	8.3	8.7
13問 (61.9%)	8.7	9.1
12問 (57.1%)	9.3	9.2
11問 (52.4%)	9.6	9.1
10問 (47.6%)	9.0	8.4
9問 (42.9%)	8.3	7.4
8問 (38.1%)	7.2	6.3
7問 (33.3%)	5.9	5.1
6問 (28.6%)	4.4	4.0
5問 (23.8%)	3.2	2.9
4問 (19.0%)	1.9	1.8
3問 (14.3%)	1.0	1.0
2問 (9.5%)	0.4	0.4
1問 (4.8%)	0.1	0.1
0問 (0.0%)	0.0	0.1

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△14.0問	15.0問
第2四分位	◇11.0問	12.0問
第1四分位	▽9.0問	9.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。  
 ■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

### 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

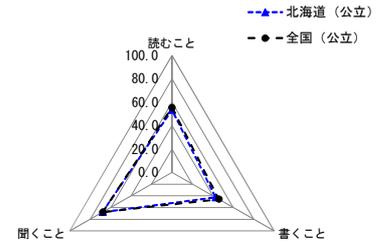


# 問題別調査結果 [中学校英語]

## 集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）
	583	9,500		37,844	938,888
分類	区分		対象問題数（問）	平均正答率（%）	
	全体			北海道（公立）	全国（公立）
			21	54 [54.2]	56 [56.0]
学習指導要領の領域	聞くこと		7	67.9	67.9
	話すこと（参考値）				
	読むこと		6	53.4	55.6
	書くこと		8	42.7	45.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		0		
	外国語表現の能力		1	1.4	1.8
	外国語理解の能力		6	44.2	44.7
	言語や文化についての知識・理解		14	62.2	64.7
問題形式	選択式		13	70.5	71.4
	短答式		5	40.6	45.2
	記述式		3	5.8	6.8

## <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



## 問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式	正答率（%）		無解答率（%）		
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解		知識に関する問題	活用に関する問題	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)									92.0	91.1	0.2	0.2
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)									87.7	88.6	0.1	0.1
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)									71.1	72.3	0.2	0.2
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7)	(4)									62.5	61.8	0.2	0.2
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を選び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(4)										73.9	71.8	0.1	0.2
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	(4)										81.6	82.0	0.2	0.2
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(9)										6.7	7.6	44.9	42.3
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)								75.9	79.4	0.1	0.2
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)								72.7	74.4	0.1	0.2
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)								69.3	73.1	0.3	0.4
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる			(9)								60.2	62.9	0.4	0.4
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる			(9)								33.0	32.8	1.0	1.0
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる			(4)								9.4	10.9	32.2	27.9

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				(参考) 従来の区分	問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	知識に関する問題	活用に関する問題	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
9(1)①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)				○	○		○			79.5	79.9	0.2	0.3
9(1)②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)				○	○		○			57.6	58.2	0.4	0.5
9(2)①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○		○			70.6	73.6	4.8	4.4
9(2)②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○		○			25.0	28.9	14.9	12.6
9(3)①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○		○			45.5	53.5	7.7	6.4
9(3)②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○		○			27.4	32.9	12.0	9.3
9(3)③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○		○			34.2	37.4	11.8	10.5
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる			(7) (4)		○					○			1.4	1.8	10.4	8.3

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

		H31(R1)
平均正答率が全国以上の問題数		4/21問
無解答率が全国以下の問題数		13/21問
無解答率が5%以上の問題数		7/21問

## ■ 過去の同一問題との比較

- 過去の全国学力・学習状況調査との同一問題（1問）については、全国平均を下回ったが、差は縮まった。

	全国平均以上の問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が縮まった問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が広がった問題の数
小学校調査	0	1	0
中学校調査	—	—	—

※ 過去の調査とは、平成19～22、24～30年度の全国学力・学習状況調査を指す。

なお、各調査の対象児童生徒や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

### 〔小学校国語〕

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
1 四 (1) ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す (調査のたいしょう)	41.4%	41.9%	平成29年度	39.1%	42.0%
		-0.5			-2.9	

〔小学校算数〕 該当なし

〔中学校国語〕 該当なし

〔中学校数学〕 該当なし

## 4. 質問紙調査（P3の項目を掲載）

### 【児童生徒質問紙】

### 児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

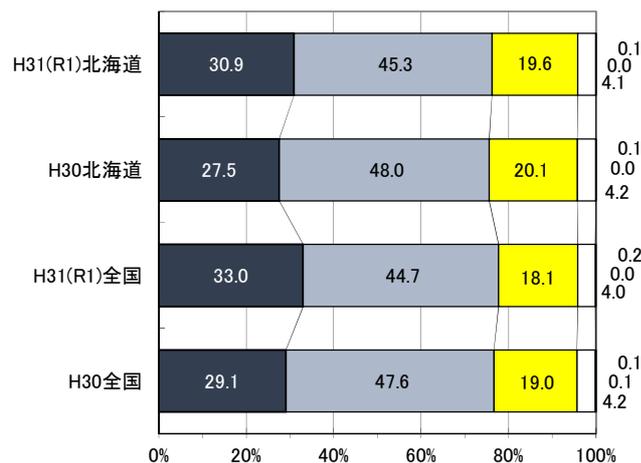
① 「5年生まで[中:1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」

(児童生徒 質問番号 小35、中37)

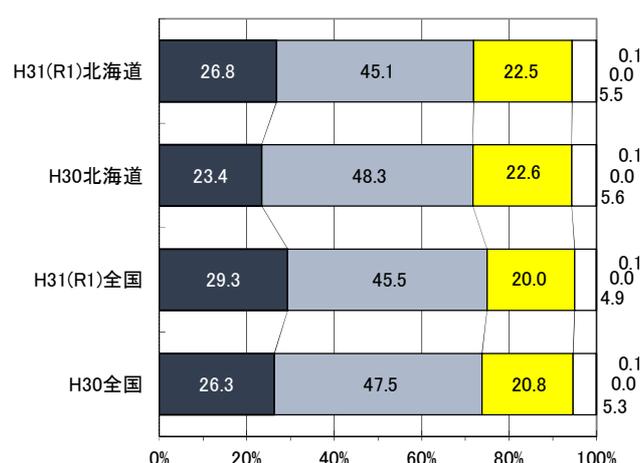
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校、中学校とも3.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で2.5ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



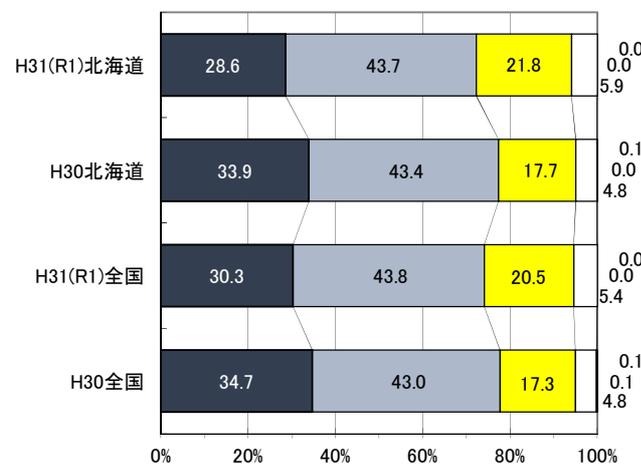
② 「学級の友達と[中:生徒]の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

(児童生徒 質問番号 小29、中32)

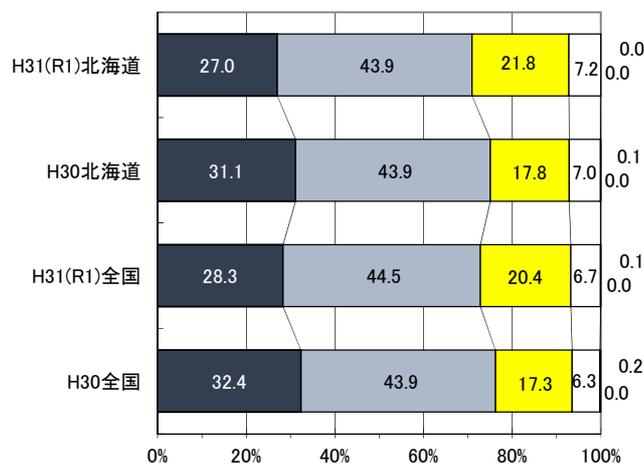
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で5.3ポイント、中学校で4.1ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.7ポイント、中学校で1.3ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



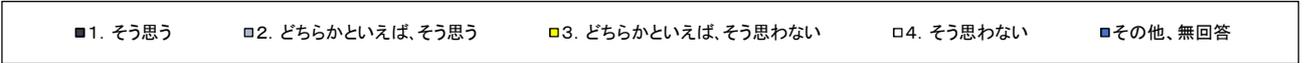
【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

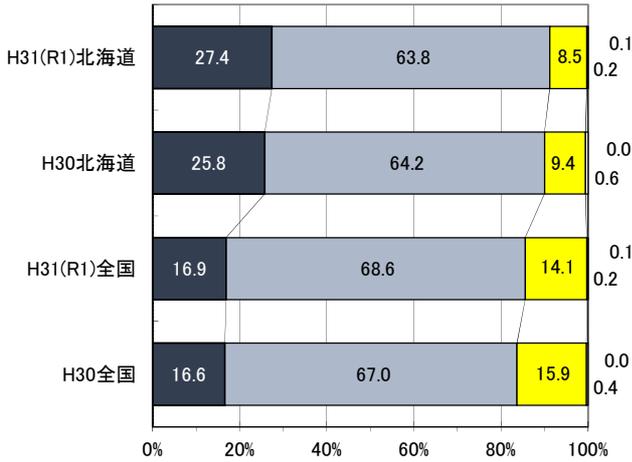
⑨ 「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」

(学校 質問番号 小32、中33)

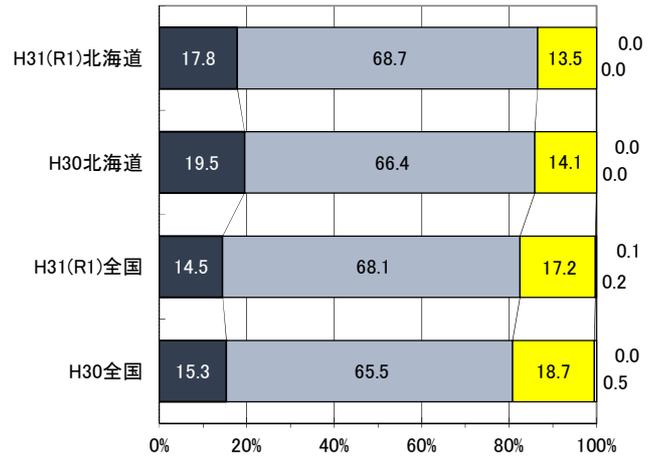
「1. そう思う」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.6ポイント高く、中学校で1.7ポイント低い。全国と比べて、小学校で10.5ポイント、中学校で3.3ポイント高い。



〈小学校〉



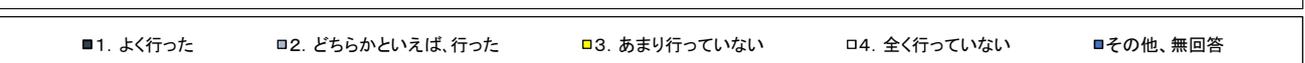
〈中学校〉



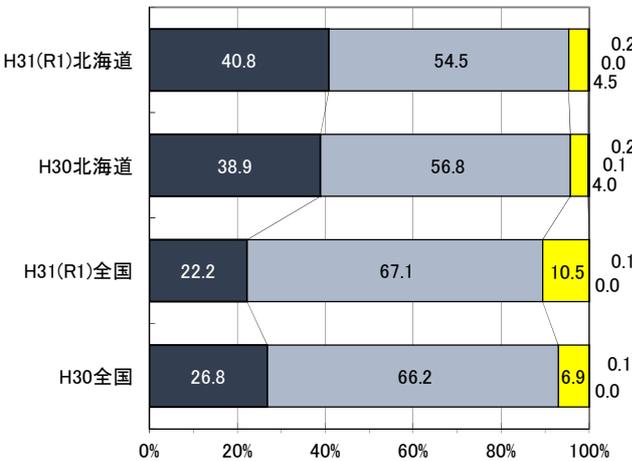
⑩ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をされましたか」

(学校 質問番号 小37、中37)

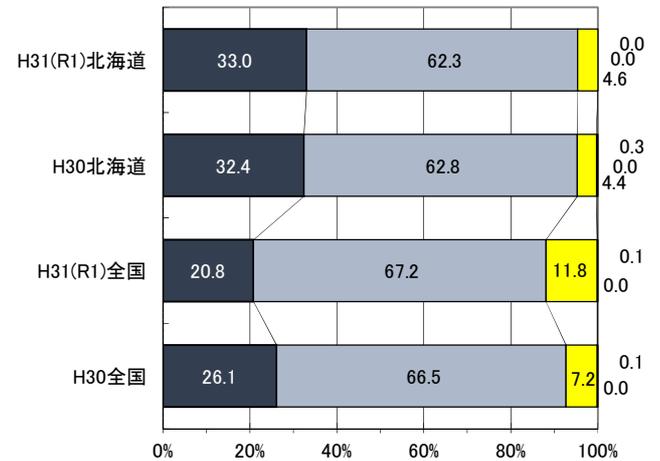
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.9ポイント、中学校で0.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で18.6ポイント、中学校で12.2ポイント高い。



〈小学校〉



〈中学校〉



【児童生徒質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

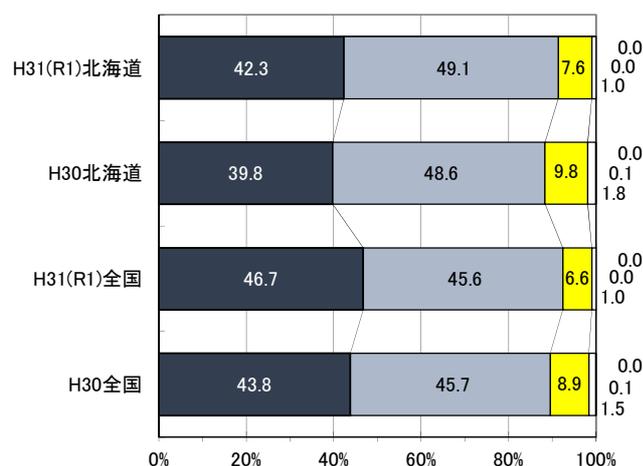
③ 「学校のきまり[中:規則]を守っていますか」

(児童生徒 質問番号 小13、中13)

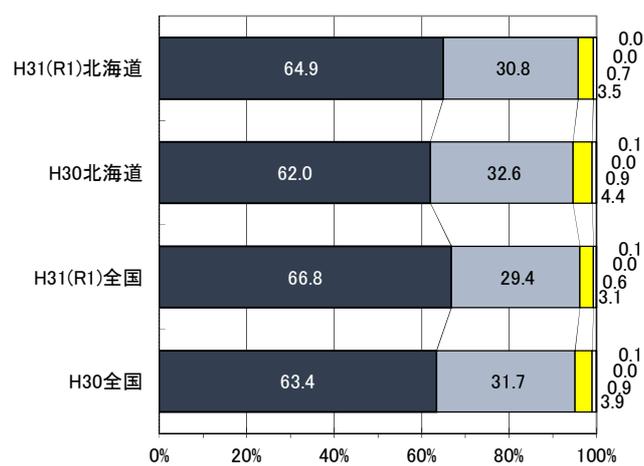
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.5ポイント、中学校で2.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.4ポイント、中学校で1.9ポイント低い。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



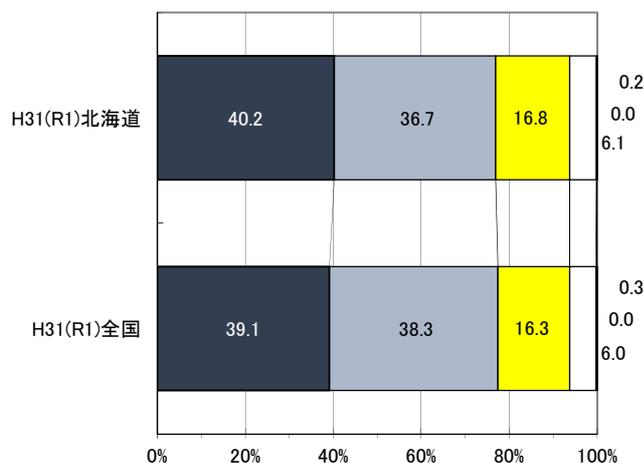
④ 「中:1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」(新規)

(生徒 質問番号 中65)

「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて、1.1ポイント高い。

□ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる □ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈中学校〉



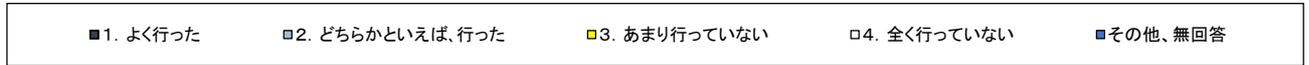
【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

⑪ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか」

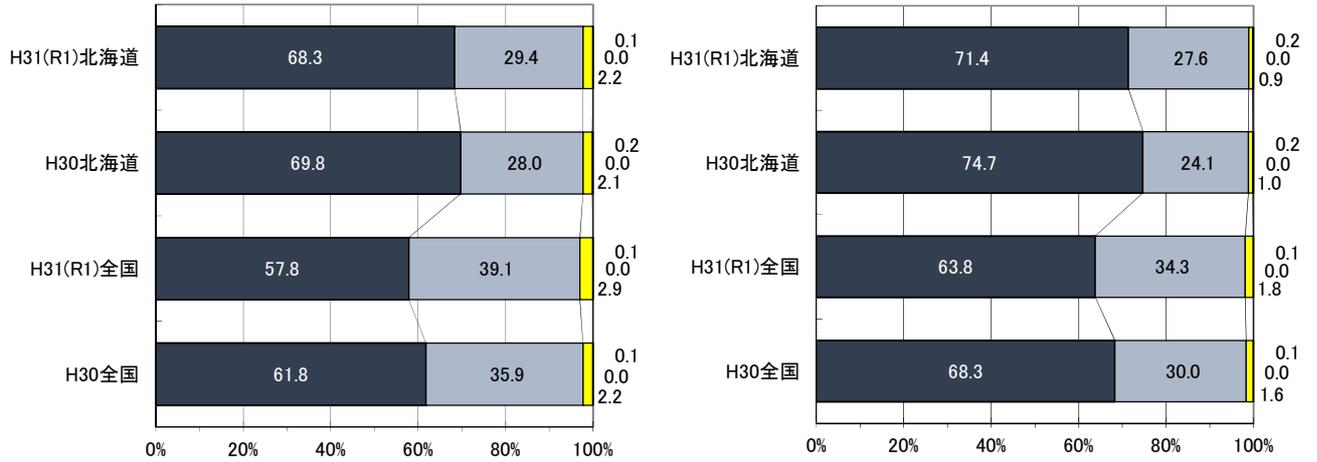
(学校 質問番号 小13、中13)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.5ポイント、中学校で3.3ポイント低い。全国と比べて、小学校で10.5ポイント、中学校で7.6ポイント高い。



〈小学校〉

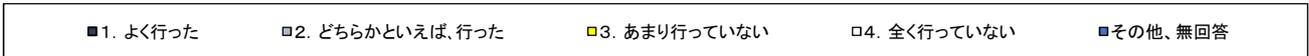
〈中学校〉



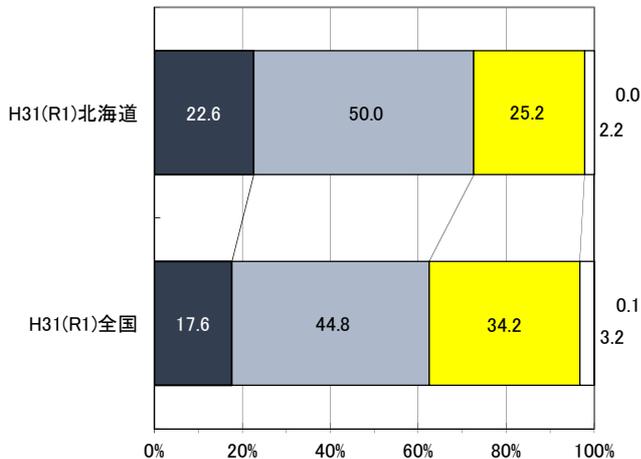
⑫ 「中: 調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動をどの程度行いましたか」(新規)

(学校 質問番号 中57)

「1. よく行った」と回答している中学校の割合は、全国と比べて、5.0ポイント高い。



〈中学校〉



【児童生徒質問紙】

学習意欲、学習習慣に関する項目

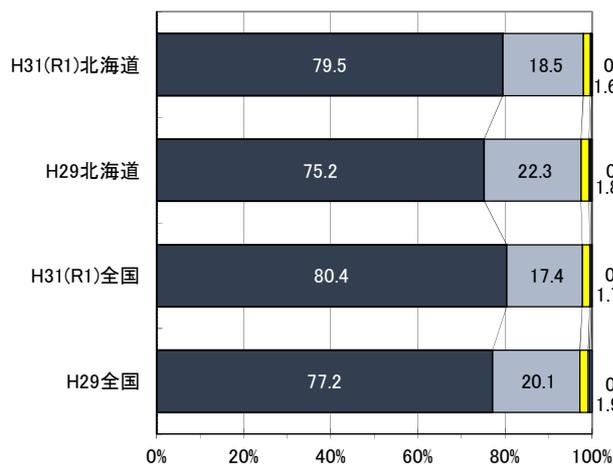
⑤ 「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」(新規)

(児童生徒 質問番号 小45、中48)

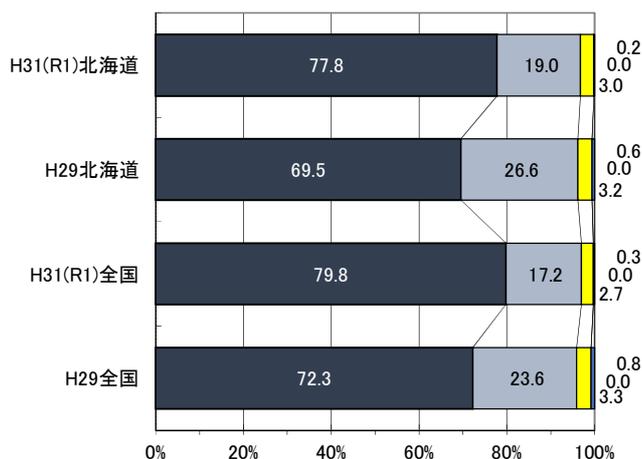
「1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している児童生徒の割合は、平成29年度と比べて、小学校で4.3ポイント、中学校で8.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.9ポイント、中学校で2.0ポイント低い。

- 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった
- 3. 書く問題は全く解答しなかった
- その他
- 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



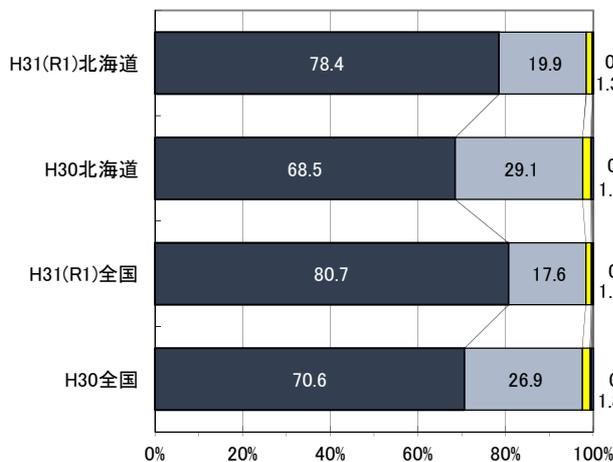
⑥ 「今回の算数・数学の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く[中:解答を言葉や数、式を使って説明する]問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」

(児童生徒 質問番号 小56、中53)

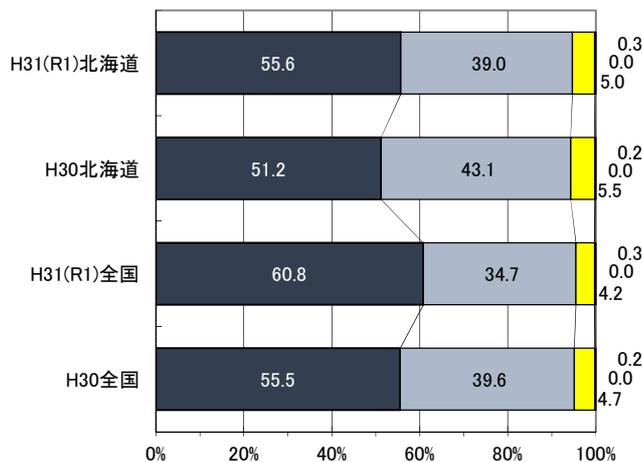
「1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で9.9ポイント、中学校で4.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.3ポイント、中学校で5.2ポイント低い。

- 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった
- 3. 書く問題は全く解答しなかった
- その他
- 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



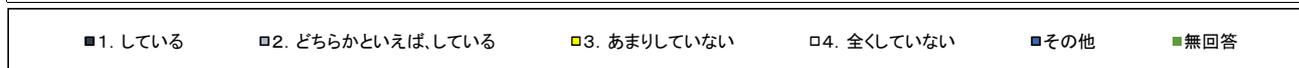
【児童生徒質問紙】

学習意欲、学習習慣に関する項目

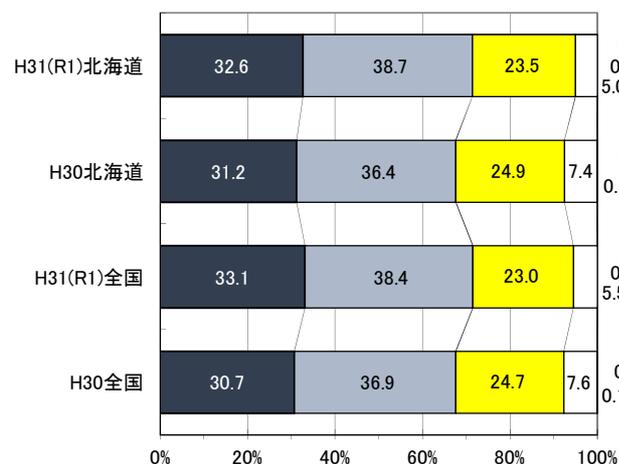
⑦ 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」

(児童生徒 質問番号 小17、中17)

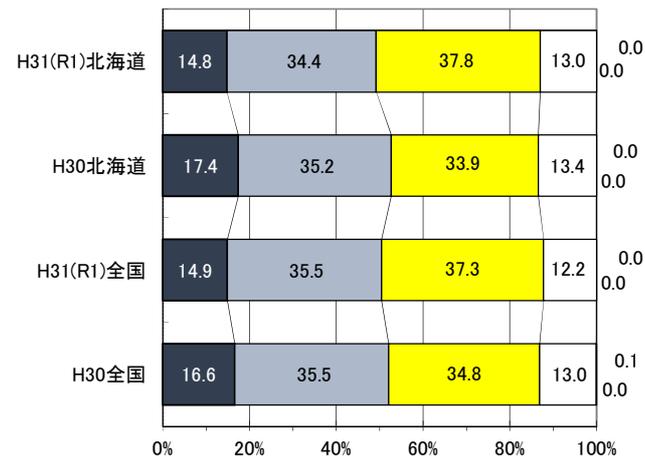
「1. している」、「2. どちらかといえば、している」と回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で3.7ポイント高く、中学校で3.4ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント、中学校で1.2ポイント低い。



〈小学校〉



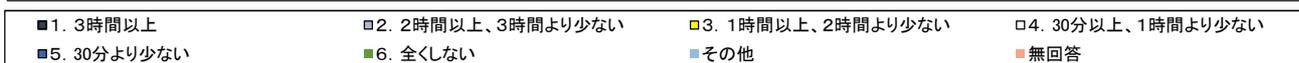
〈中学校〉



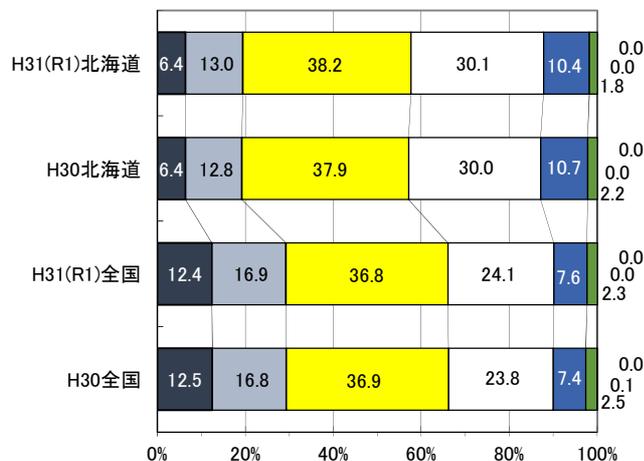
⑧ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)」

(児童生徒 質問番号 小18、中18)

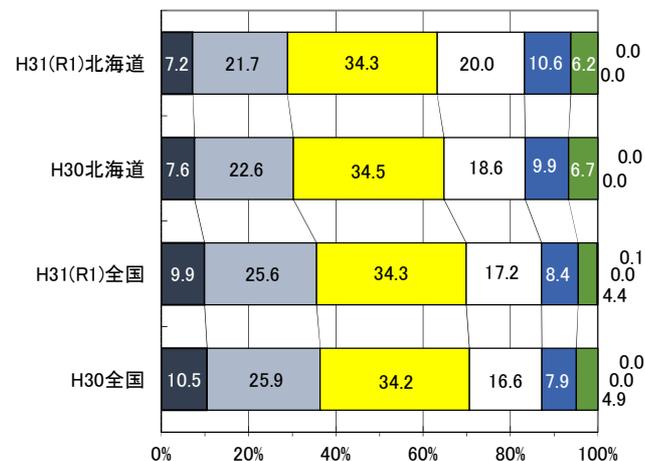
1日当たり1時間以上すると回答している児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で1.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で8.5ポイント、中学校で6.6ポイント低い。



〈小学校〉



〈中学校〉



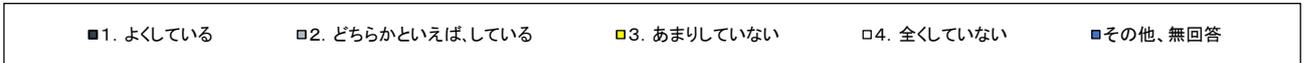
【学校質問紙】

カリキュラム・マネジメント等に関する項目

⑬ 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

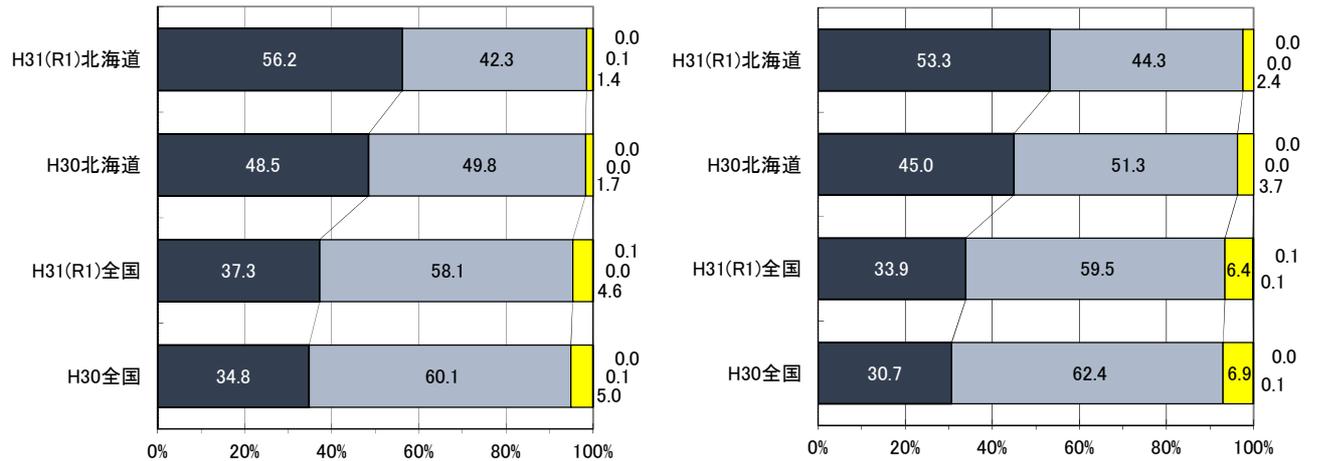
(学校 質問番号 小17、中17)

「1. よくしている」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で7.7ポイント、中学校で8.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で18.9ポイント、中学校で19.4ポイント高い。



〈小学校〉

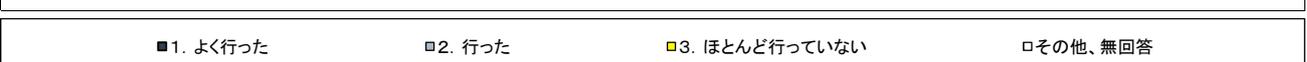
〈中学校〉



⑭ 「平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

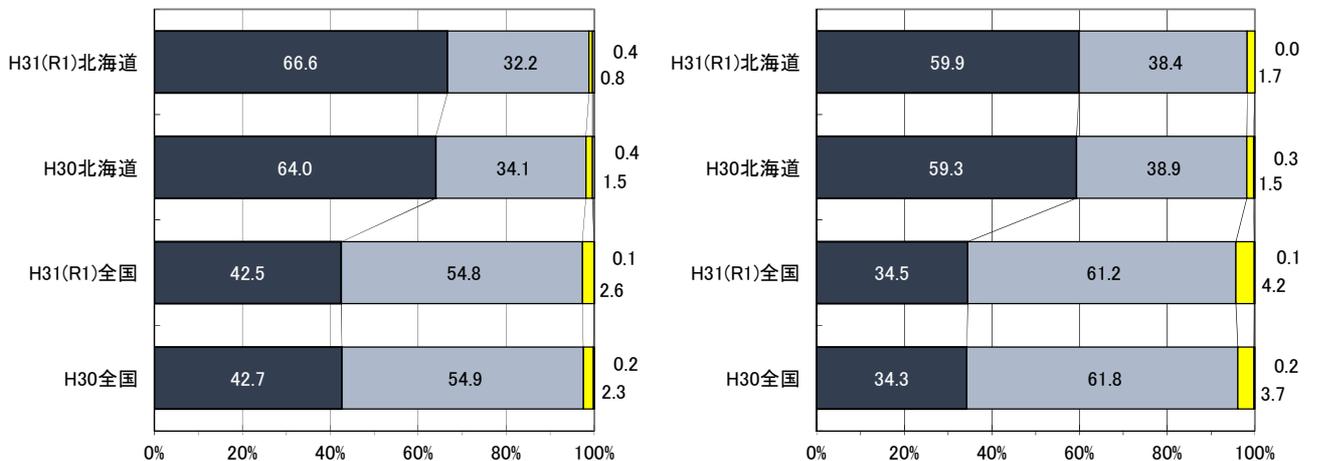
(学校 質問番号 小63、中79)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で2.6ポイント、中学校で0.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で24.1ポイント、中学校で25.4ポイント高い。



〈小学校〉

〈中学校〉



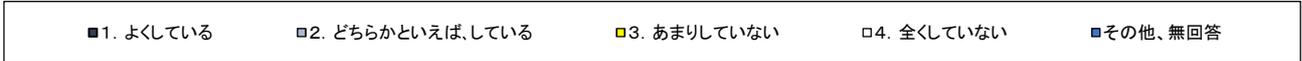
【学校質問紙】

カリキュラム・マネジメント等に関する項目

⑮ 「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか」

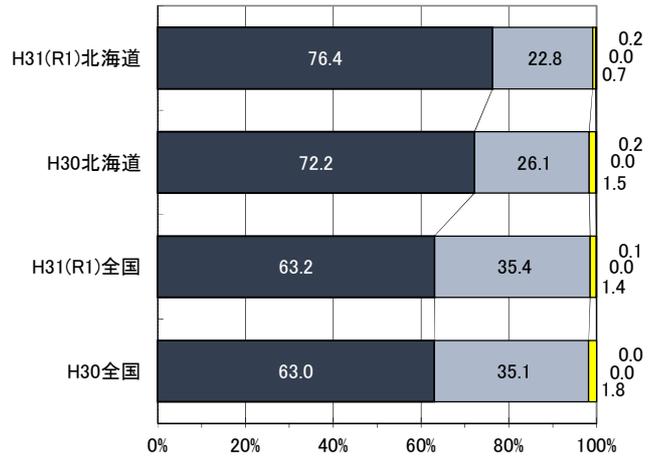
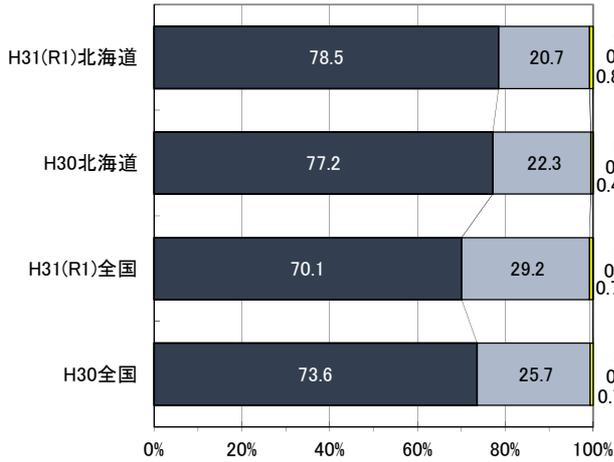
(学校 質問番号 小22、中23)

「1. よくしている」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.3ポイント、中学校で4.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.4ポイント、中学校で13.2ポイント高い。



〈小学校〉

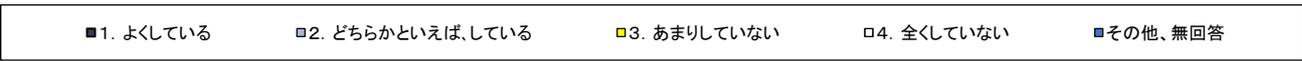
〈中学校〉



⑯ 「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」

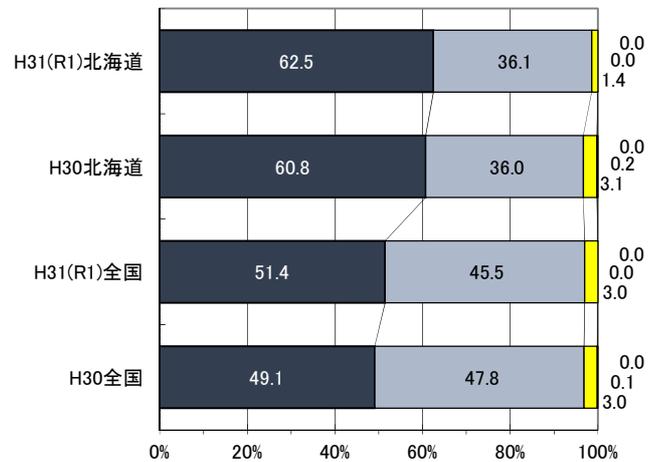
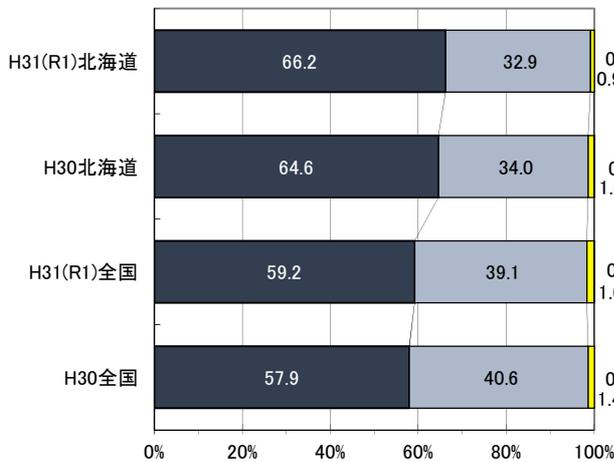
(学校 質問番号 小30、中31)

「1. よくしている」と回答している学校の割合は、昨年度と比べて、小学校で1.6ポイント、中学校で1.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で7.0ポイント、中学校で11.1ポイント高い。



〈小学校〉

〈中学校〉



## 【参考】札幌市を除く北海道の調査結果

- 国は指定都市を除く都道府県の調査結果も公表していることから、「札幌市を除く北海道の調査結果」の概要を掲載します。

### 1. 調査の概要

	対象学校数(校)	実施学校数(校) (実施率)	児童生徒数(人)
小 学 校	800	798 (99.8%)	24,352
中 学 校	486	485 (99.8%)	24,627
合 計	1,286	1,283 (99.8%)	48,979

### 2. 結果の概要

#### ■ 教科に関する調査

各教科の平均正答率

		小学校				中学校				
		国語		算数		国語		数学		英語
		H31(R1)		H31(R1)		H31(R1)		H31(R1)		H31(R1)
		H30A	H30B	H30A	H30B	H30A	H30B	H30A	H30B	
平均 正答率 (%)	道 (札幌市を除く)	<b>63[63.4]</b>		<b>64[63.9]</b>		<b>71[71.4]</b>		<b>57[56.7]</b>		<b>53[52.7]</b>
		69[69.4]	52[52.3]	61[61.4]	48[47.6]	76[76.0]	60[60.3]	64[63.6]	44[44.3]	—
	国	<b>64[63.8]</b>		<b>67[66.6]</b>		<b>73[72.8]</b>		<b>60[59.8]</b>		<b>56[56.0]</b>
		71[70.7]	55[54.7]	64[63.5]	52[51.5]	76[76.1]	61[61.2]	66[66.1]	47[46.9]	—
平均 正答数 (問)	道 (札幌市を除く)	<b>8.9/14</b>		<b>9.0/14</b>		<b>7.1/10</b>		<b>9.1/16</b>		<b>11.1/21</b>
		8.3/12	4.2/8	8.6/14	4.8/10	24.3/32	5.4/9	22.9/36	6.2/14	—
	国	<b>8.9/14</b>		<b>9.3/14</b>		<b>7.3/10</b>		<b>9.6/16</b>		<b>11.8/21</b>
		8.5/12	4.4/8	8.9/14	5.1/10	24.3/32	5.5/9	23.8/36	6.6/14	—

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値 [道教委が独自に算出した小数値]

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値 [国が公表した小数値]

※ 上段は平成31年度(令和元年度)、下段は平成30年度、英語は平成31年度(令和元年度)から実施。

※ 中学校英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値。